

<基礎教育学会(仮称)設立準備会 事務局>

〒195-8585 町田市金井町 2160 和光大学社会教育学(岩本)研究室内

お問い合わせ: iwamoto@wako.ac.jp

CONTENTS

- 1 大阪会議報告および  
進捗状況について
- 2 岩槻知也氏(京都女子大学)報告
- 3 メッセージ
- 4 今後の予定等

## 1 大阪会議報告および、進捗状況について

ニューズレター第2号をお届けします。

2015年7月12日(日)、第三回設立準備会を開催しました。初の大阪開催ではありましたが、参加者33名となり、大盛況に終わることができました。関西在住の設立準備会関係者の方々、また、関西の識字教室関係者や大学院生の他、日本社会教育学会事務局長の石井山竜平さん(東北大学)、一時帰国されていたユネスコ・ダッカ事務所の大安喜一さんにもご参加いただきました。会場は、識字・日本語教育がご専門の新矢麻紀子さん(大阪産業大学)のご尽力で、大阪産業大学梅田サテライトをご提供いただきました。

会議の前半は、「リテラシー/識字」について、岩槻知也さん(京都女子大学)に報告していただきました。国内の先行研究から「識字」概念を実践の内実即して読み解くとともに、海外の「新しい識字」研究の動向を紹介いただきました。後半は、学会名称、設立趣意書案、呼びかけ人名簿等について議論を重ねました。また、東大阪市太平寺中学校夜間学級の移転問題について、同校教諭で全国夜間中学校研究会事務局長の黒川優子さんから経過説明があり、関西での夜間中学をめぐる動向を伺いました。

会議終了後の懇親会では、棚田洋平さん(部落解放・人権問題研究所)に案内いただいた沖縄料理店にて、楽しい交流の時間を過ごしました。



## 2 報告 岩槻知也氏（京都女子大学）

### 「識字」及び「リテラシー」の概念について

（2015年7月12日：大阪産業大学サテライトキャンパス於）

#### 報告内容

一般的な辞書の記述をみると、国語辞典には「識字」を「文字の読み書きができること」としているものが多い。これに対して英和辞典では、「リテラシー」に「文字の読み書き」に加えて「教養があること」や「特定の分野に関する基本的な知識・技能」等の訳語を与えており、かなり広い意味を含んでいることが分かる。教育学関連の辞典では「識字運動」や「識字教育」の項目があるが、内容のほとんどは「途上国」の状況の記述であり、日本の取り組みに関する言及はほとんどない（2012年の『社会教育・生涯学習辞典』は例外）。

数少ない日本の識字教育に関する研究に基づき、その教育活動の特徴を整理してみると、

- ① 学習者の多くが「マイノリティ」であること、
- ② 学習者の日常生活に結びついた言葉の学習が中心に据えられていること、
- ③ 学習者自身の思いや感情、生活史の言葉や文字による表現が尊重されていること、
- ④ 教育の場自体が人のつながりを実感できる、生きることを励まし合える居場所となっていること、などがあげられる。

これらの特徴から、日本で「識字教育」と呼ばれる活動が、単なる文字の読み書き技能の教育とは異なることがわかるだろう。ユネスコが採用してきた「リテラシー」概念の変遷をみても、「基礎的な読み書き」という捉え方から、「社会参加のための読み書き（機能的リテラシー）」や「自身がおかれている状況の意識化や社会変革を促す読み書き（批判的リテラシー）」などのより広い捉え方へと変化してきているといえよう。



2015年7月12日（日）、於 大阪産業大学サテライトキャンパス)

### 3 メッセージ：「おおさか識字・日本語センター」 柴田亨氏より

第3回基礎教育学会(仮称) 設立準備会に参加されました「おおさか識字・日本語センター」の柴田亨氏より、貴重なメッセージをいただきました。

下記のとおり、その一部をご紹介します。

私は、7月12日に大阪にて、第3回基礎教育学会(仮称) 設立準備会に参加した柴田と申します。岩槻さんとは、26年前から親交があり、共に、識字・日本語教室「よみかき茶屋」の設立に関わり、現在も活動を続けております。当日は、森実さんから開催を教えてください、懐かしさもあって、活動仲間と参加させていただきました。講演のみを聞かせていただき、退席いたしましたが、基礎教育学会について、関心を持ちました。

私は、学者でもなく、社会教育の分野で仕事をしてきて、教室に関わり続けているだけのものです。長く活動を続けているものの、自分が行っていることがどんなことなのか、もっともっと知りたい、位置付けたいと思うようになりました。

#### <お話を聞いて、考えたこと>

岩槻さんは、識字の取り組みを『関係』のなかで考えると話され、その場合、『場』が重要だと指摘されました。これを僕は、次のように考えました。

「ことば」を関係のなかで捉える考え方に対して、実体として捉える考え方があると思います。実体として考えれば、例えば、「美しい日本語」や「正しい国語」という考え方が出てきて、これを教える、身に付けるという考え方になります。どこかでやっていそうですね。

『関係』のなかにある、という考え方だと、伝える人と伝えられる人がいるわけで、その間に「ことば」が存在することになります。すると、当然ですが、母語が非常に重要になります。自分自身や自分の周りの世界を認識する言葉は、初めに与えられた言葉＝母語になります。それは、基本的には話し言葉になるでしょう。

その次に書き言葉になります。識字学級の場合で経験されていることは、それぞれに異なった母語を中核とする文化的背景、を背負った人たちが、語り、受けとめ、学びあう、という経験ではないでしょうか。「親密な場」という指摘もありましたが、それは母語習得の場に近接していると思います。できるだけ学習者の生活史に寄り添う、語りを重視しつつ相互理解を図る、こうした識字学級の学習方法は、ことばに不自由している大人の学習にとって、極めて理にかなった手法であると思います。

解放運動との関わりが深いとしても、識字は教育の営みであって、解放運動それ自身ではありません。支配の道具としての言語の習得を、解放の道具としての言語習得へと転換していく、そうした視点は極めて重要です。しかし、それは政治的活動を含みこんではいますが、その逆ではありません。もう一つは、『場』の重要性という考え方です。それは、学びあう空間を作り出すということだと思います。要するに、教室を作ること、それが一番重要であって、それぞれの教室を大切にすることではないでしょうか。

「おおさか識字・日本語センター」HP <http://www.call-jsl.jp/> より転載

## 審議事項)

- ・ 前回議事録の確認と承認  
今後、若干の文章表現の変更を見越した上で、大筋で承認した。
- ・ ニュースレターの配布先について  
紙版を、超党派議連メンバーにも配布することを承認した。
- ・ 世話人の役割分担について 次のように承認した。  
会計（関本）、広報①HP（藤田）、  
広報②会報（長岡）、記録+ML（岩本）、  
起草委員会担当（添田）、  
組織①名簿管理（森）、  
組織②リクルート（新矢）、  
情報収集・設立大会担当（野山）
- ・ 学生会費について 一般会員は 3000 円だが、半額の 1500 円とすることを確認した。
- ・ その他、設立趣意書の表現内容や、学会の名称について、議論が行われた。いずれも、次の会議に持ち越されることとなった。

## 4 次回日程について

日時：2015年9月13日（日）  
14時～17時

会場：中野サンプラザ  
6階、バードルーム  
<http://www.sunplaza.jp/>

議事に先立ち、須田登美男先生による「多様な学習機会拡充法案」の勉強会を開きます。どなたでも参加できます。なお、12時から、科研ミーティングを行います。

## &lt;関連イベント報告&gt;

2015年7月25日（土）、松竹「東劇」（東京中央区築地4-1-1）にて、夜間中学映画祭第二弾として、「学校」・「こんばんは」の上映会（バリアフリー版）を行いました。当日は、「学校」の山田洋次監督、また、当作品の夜間中学教師のモデルでもある見城慶和さんらによるトークショーも行われ、会場を盛り上げました。



写真：左から、山田洋次監督、田村啓子さん、見城慶和先生。 撮影 小林チヒロ